



決算説明会

平成20年3月期(第26期)中間決算



平成19年 11月 30日(金)

【4570】 株式会社 免疫生物研究所



決算概要・経営方針

平成20年3月期 中間決算 決算内容について

株式会社 免疫生物研究所

代表取締役社長 清藤 勉



平成20年3月期中間総括

【研究用試薬関連事業】

国立大学等の法人化、製薬企業の合併などの環境悪化(特に第2四半期)

⇒ 減収へ

新製品 11 品目

【実験動物関連事業】

製薬企業合併の影響 ⇒ 減収へ

初の自社開発品を農林水産省に申請

【医薬関連事業】

抗ヒトオステオポンチン抗体(2K1): 契約の変更 ⇒ 今期の受領額は1/2

【その他事業】

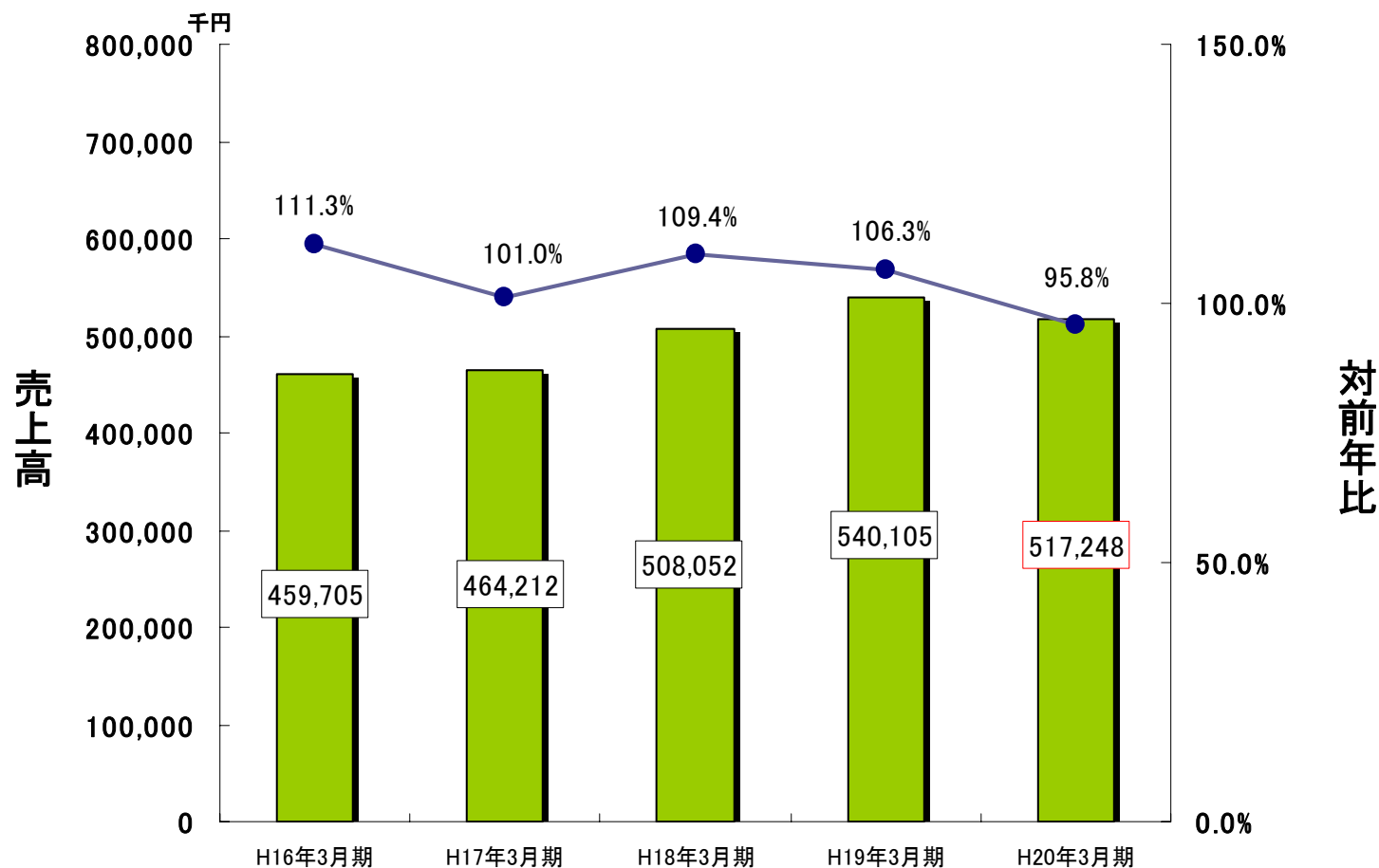
クレアチンを水溶化した飲料水のサンプル供給

決算実績

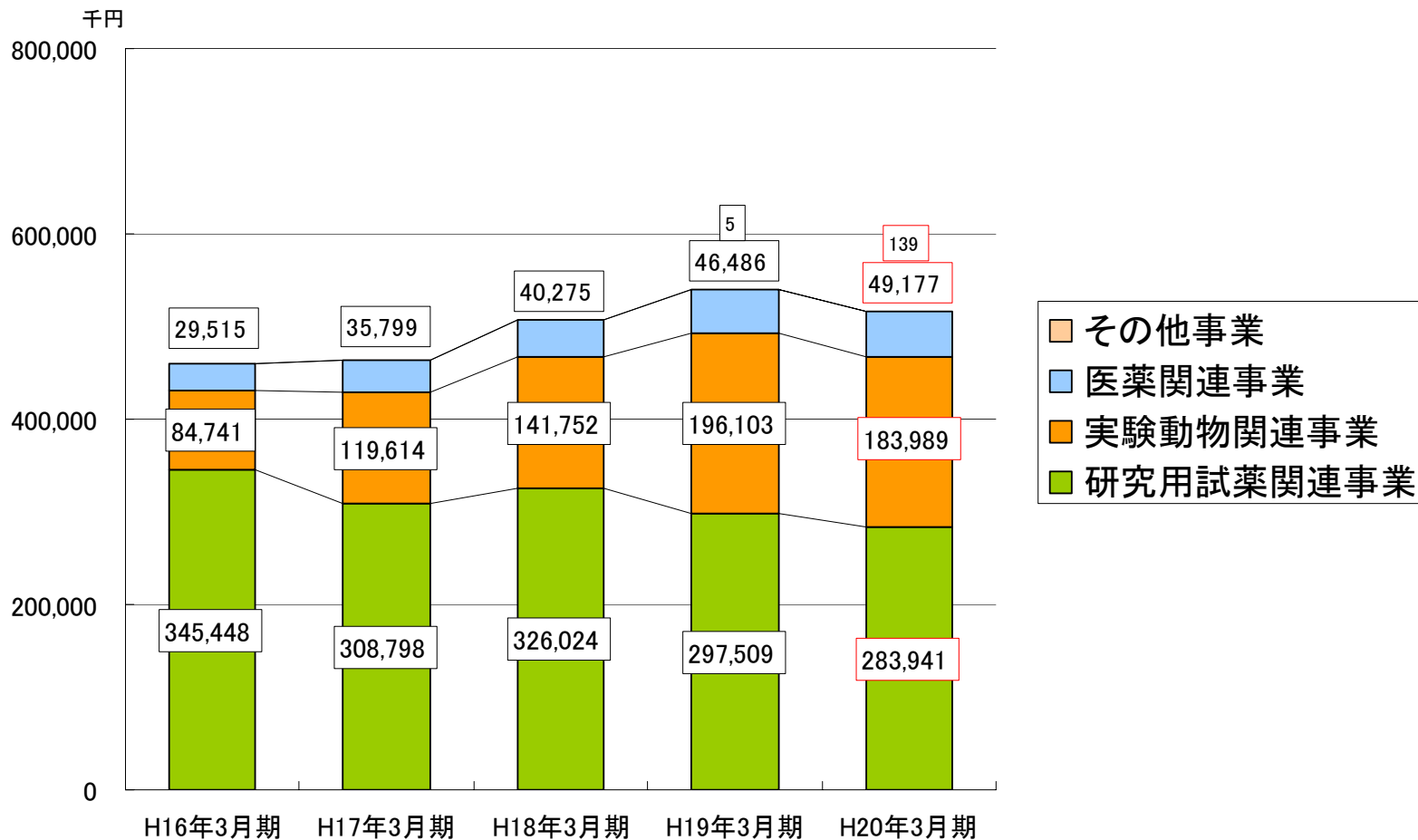
(千円)

	H20年3月期 中間決算実績	H20年3月期 年初中間計画	H19年3月期 中間実績	前期比増減
売上高	517,248	615,000	540,105	-22,857 -4.2%
営業利益	-232,666	-218,000	-159,075	-73,591 —
経常利益	-232,260	-207,000	-167,826	-64,434 —
当期純利益	-255,447	-134,000	-102,318	-153,129 —

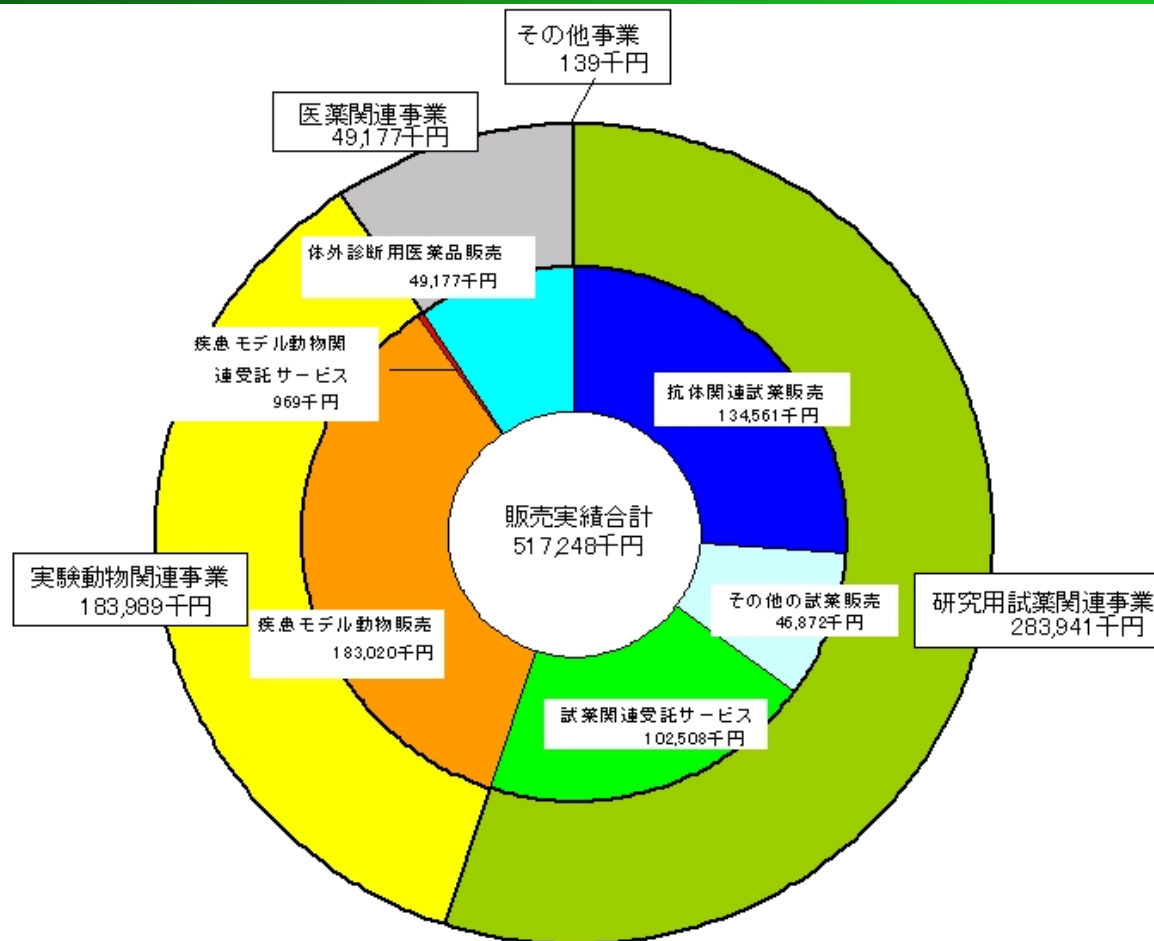
売上高推移(中間期)



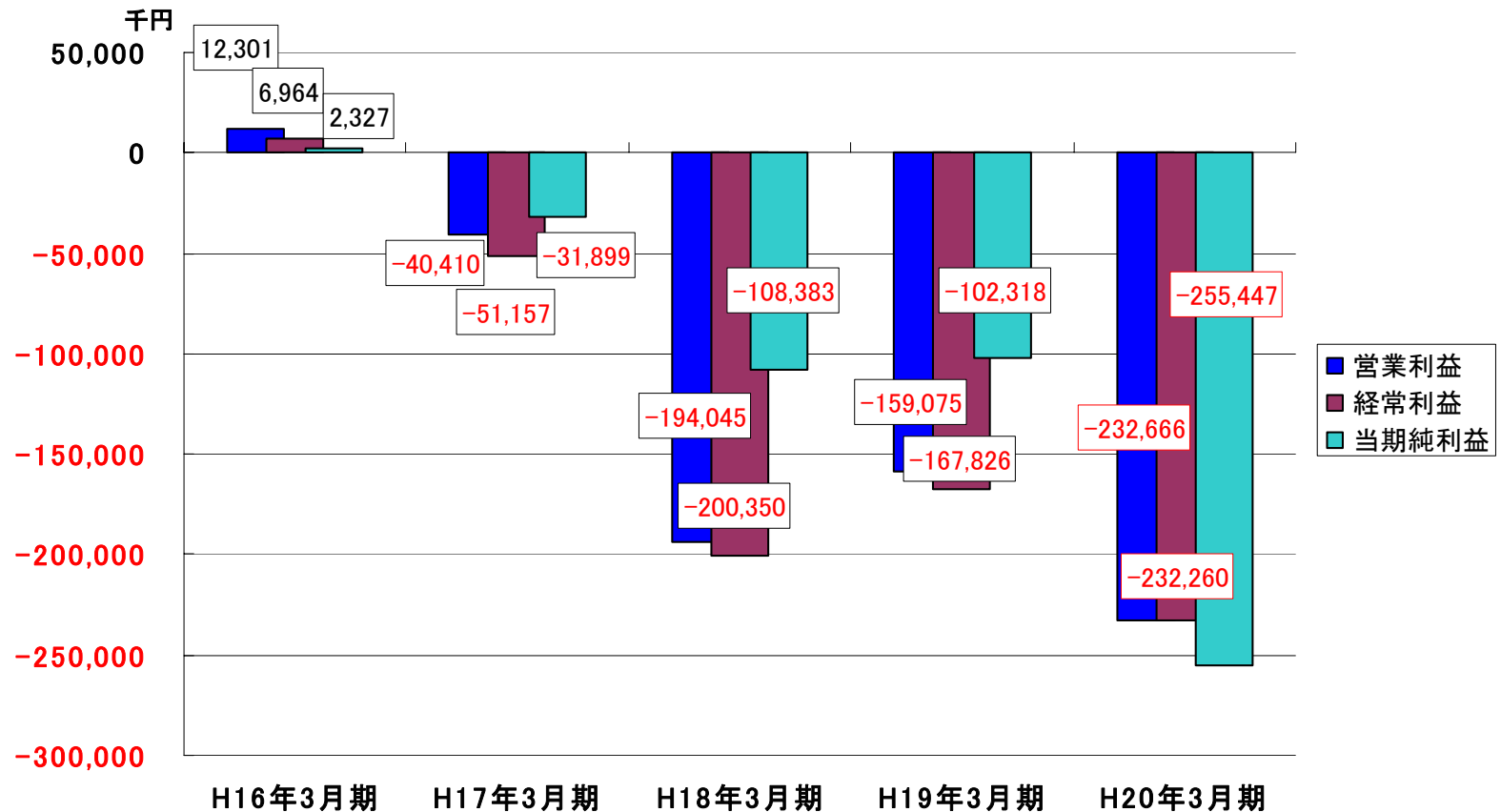
セグメント別売上推移(中間期)



セグメント別売上(中間期)



営業利益・經常利益・ 当期純利益推移(中間期)



貸借対照表

(千円)

	平成19年 9月末	平成19年 3月末	増減額		平成19年 9月末	平成19 年3月末	増減額
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	1,256,173	1,879,212	▲ 623,039	流動負債	151,411	255,859	▲ 104,447
現金及び預金	583,051	1,299,029	▲ 715,978	固定負債	96,109	107,136	▲ 11,026
有価証券	200,000	-	200,000	負債合計	247,521	362,996	▲ 115,474
固定資産	1,864,447	1,609,360	255,087	(純資産の部)			
有形固定資産	1,437,706	1,470,931	▲ 33,224	資本金	1,570,985	1,569,500	1,485
無形固定資産	77,745	87,602	▲ 9,857	資本剰余金	1,415,753	1,414,268	1,485
投資その他の 資産	348,995	50,826	298,169	利益剰余金	▲ 113,638	141,808	▲ 255,447
				純資産合計	2,873,099	3,125,576	▲ 252,477
資産合計	3,120,620	3,488,572	▲ 367,952	負債・純資産 合計	3,120,620	3,488,572	▲ 367,952

キャッシュ・フロー

	平成19年9月中間期	平成18年9月中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 159,731	▲ 163,331
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 349,065	▲ 107,090
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 7,060	▲ 182,136
現金及び現金同等物の 期末残高	773,025	411,241

業績予想

(千円)

	H20年3月期 決算計画	H20年3月期 年初計画	H19年3月期 実績	前期比増減
売上高	1,400,000	1,747,600	1,533,870	-133,870
				-8.7%
営業利益	-220,000	110,000	76,065	-296,065
				—
経常利益	-221,000	130,000	40,618	-261,618
				—
当期純利益	-227,000	80,000	105,382	-332,382
				—

研究用試薬関連事業及び実験動物関連事業が、引き続き厳しい環境にあることに加え、契約料の一部改定の影響による通期業績予想を鑑み、期末配当は無配を計画しております。



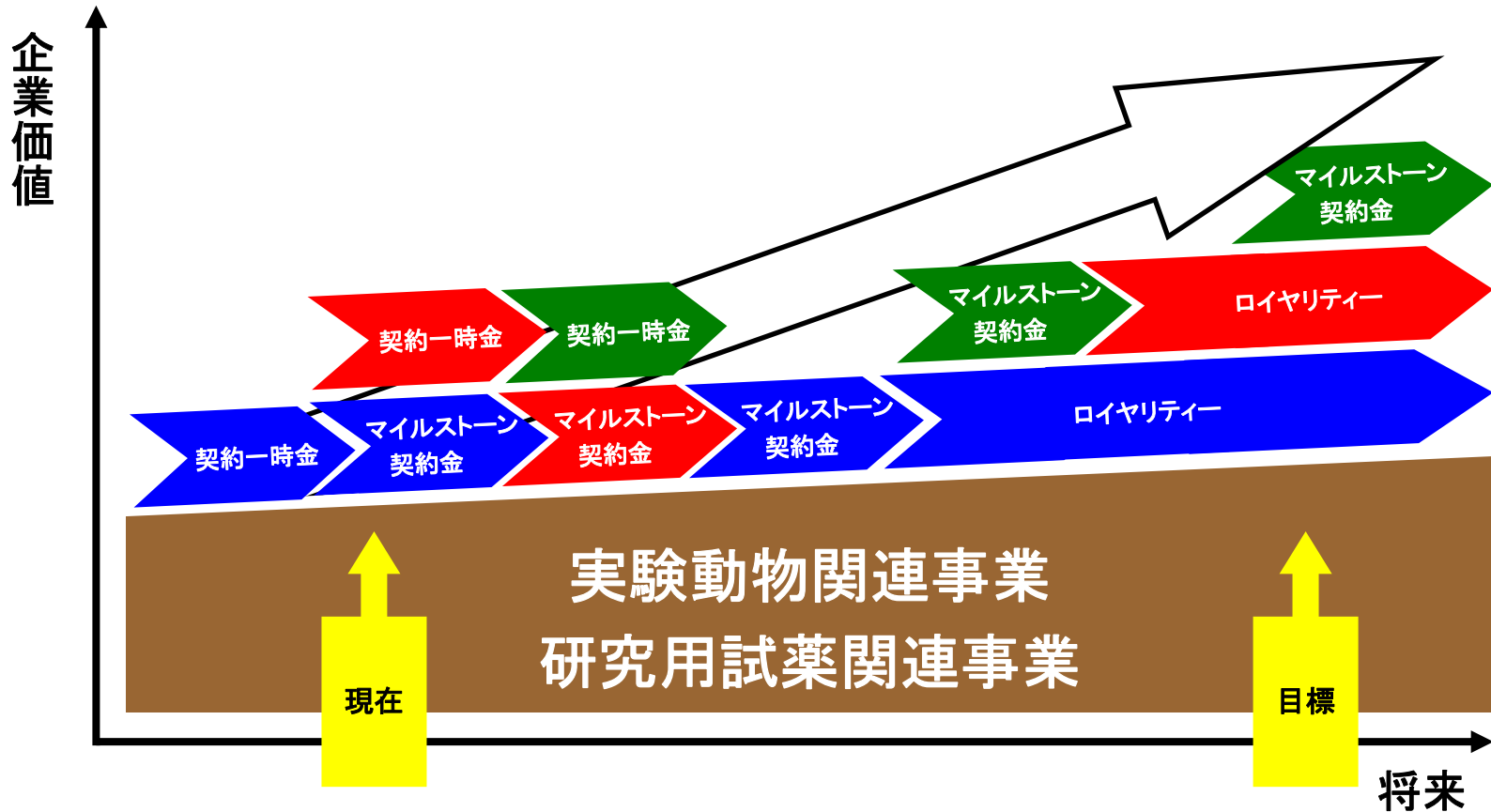
決算概要・経営方針

経営方針について

株式会社 免疫生物研究所

代表取締役社長 清藤 勉

目指すビジネスモデル





主要な経営課題

経営 事業効率の向上

事業別 【研究用試薬関連事業/ 医薬関連事業】

差別化された付加価値の高い自社製品の開発

社外：アカデミア・企業との連携強化

社内：研究所組織に対する改革

【実験動物関連事業】

自社品第一号の国内発売へ、海外導出をも視野に

【医薬関連事業】

経常的な導出

【その他事業】

水溶化クレアチン「アズノン」の拡販

組織力の強化

研究用試薬関連事業

国立大学の法人化

製薬企業の合併

環境の悪化

成長性？

早急の課題

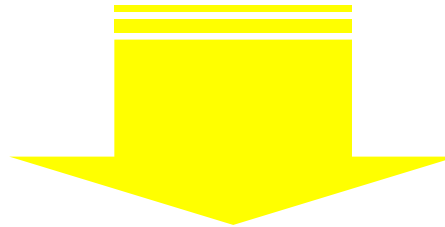
研究開発力の強化

事業効率の向上

研究開発力の強化

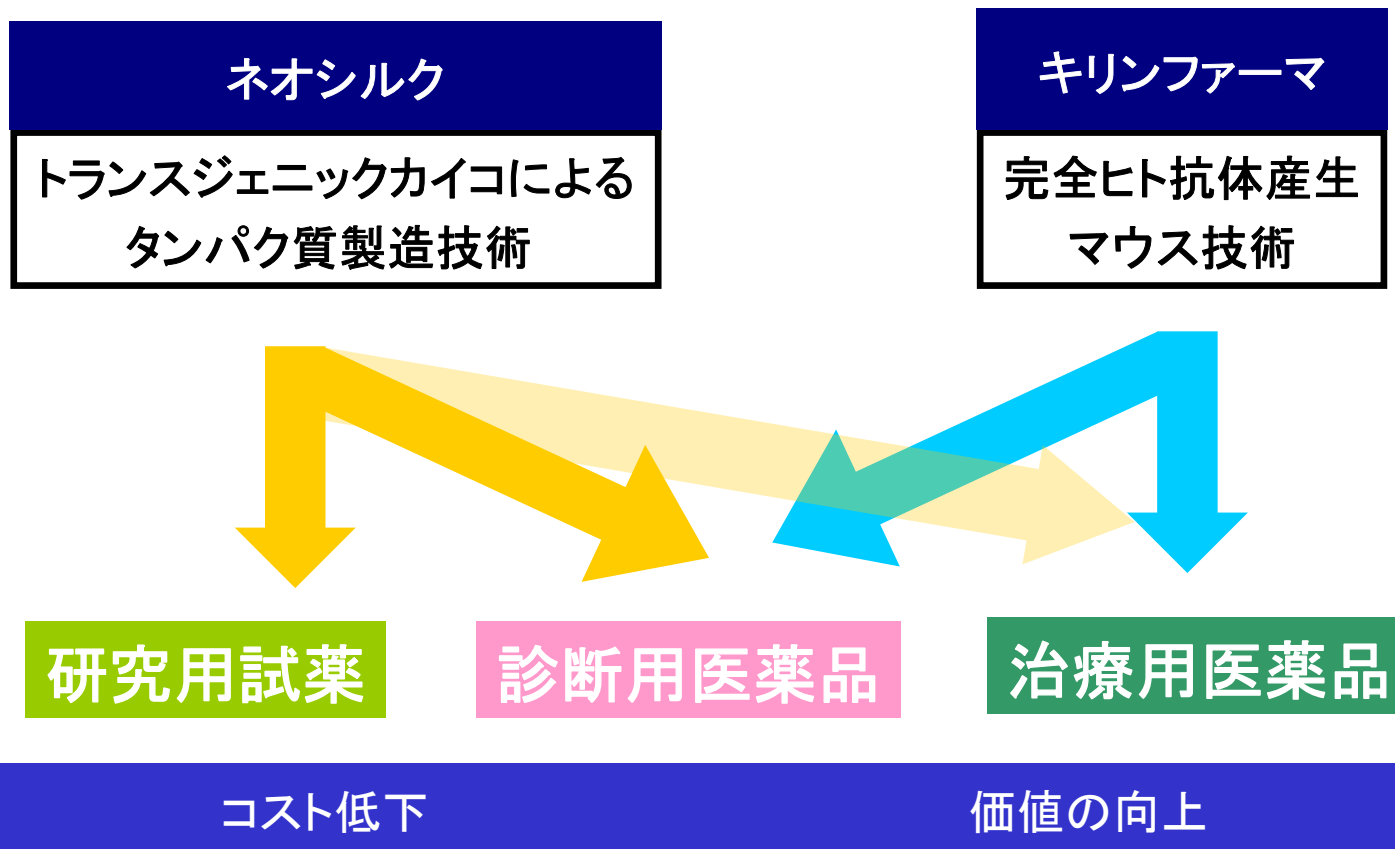
基本方針 研究開発型企业に適した組織改革をする

研究開発力の強化



- 研究所の組織改革 ⇒ 研究員制度の見直し 組織の活性化
- 遺伝子改変動物の研究者 ⇒ 実験動物関連事業 開発力の強化
(秋田大学から招聘)
- 技術の導入 ⇒ 研究用試薬関連事業 コスト低減
医薬関連事業 価値向上

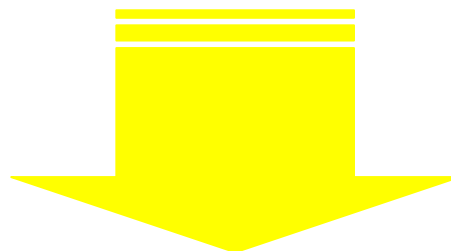
技術の導入



効率的経営

基本方針 研究開発型企业に適した組織改革をする

事業効率の向上



- 取締役 8名から減員 ⇒ 迅速な業務執行
- 成果評価制度の導入 ⇒ 組織の活性化

パイプライン状況(医薬品)

- 関節リウマチ 抗オステオポンチン抗体

治療薬 (アステラス製薬)

患者における効果と忍容性を確認する試験を実施中

診断薬 (診断薬メーカー数社)

診断薬として必要なデータを収集中

- アルツハイマー型認知症 抗アミロイドβ抗体

治療薬

(Intellect Neurosciences)

ヒト化を実施中、来年度安全性試験を開始予定

- 悪性中皮腫(アスベスト中皮腫)

診断薬 (順天堂大学 医学部)

研究型検診を実施中

- がん

体内診断薬 (複数の大学医学部)

研究の準備中

パイプライン状況(実験動物)

【炎症免疫領域】

- アトピー性皮膚炎モデル 農林水産省に申請中
- OPN ノックインマウス 開発中

【中枢領域】

- アルツハイマー型認知症
モデルマウス 開発中
- アルツハイマー型認知症関連
トランスジェニックマウス 開発中



経営理念

「抗体」を通じて、世界で難病に苦しむ人々が、1日も早く、病気を克服し、明るく豊かな暮らしを営めるよう社会に貢献いたします。



注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。